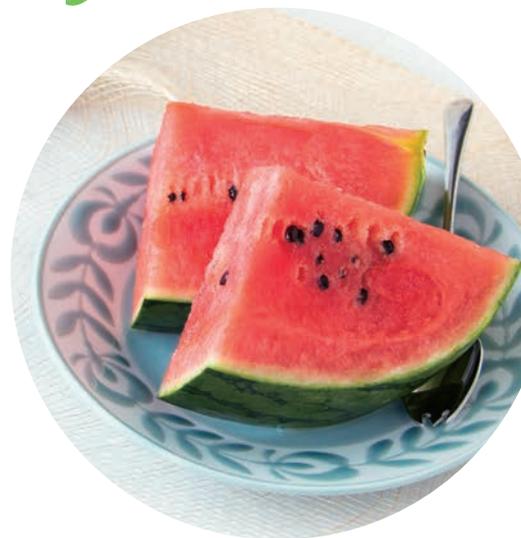


いばらきコープ 社会的責任報告 2023

IBARAKI CO-OP
Corporate Social Responsibility Report



食卓を笑顔に、地域を豊かに、
誰からも頼られる生協へ。

CO-OP
コープデリ

いばらきコープ

食卓を笑顔に、地域を豊かに。



理事長ごあいさつ

「食卓を笑顔に、地域を豊かに、誰からも頼られる生協へ。」のビジョンのもと、組合員のふだんの暮らしに貢献するとともに、地域社会から信頼される生協づくりをすすめてまいりました。おかげさまで発足当時500人足らずの組合員は、現在約39万人になりました。

平和な世界の実現と核兵器廃絶の願いに反した戦禍の広がり、地球温暖化による気候変動や自然災害の広がり、日本ではカロリーベースの自給率低下や食品ロス問題、貧困・格差の拡大、新型コロナウイルスなど、私たちは沢山の課題に直面しています。

2015年9月、国連サミットで採択されたSDGs「持続可能な開発目標」は17のゴール、169のターゲットから、地球上の「誰一人取り残さない、持続可能な社会」を誓っています。世界や日本の課題は、国境を越えて繋がっています。SDGs「持続可能な開発目標」は世界全体で同じ課題に向かい、ともに解決に向けて努力していくことが求められています。

いばらきコープは、人と自然が共生する社会と平和な未来の実現に向け「CO・OP ともにはぐくむ 暮らしと未来」という理念を掲げています。

地域の皆さんとともに「自分自身や家族のため、今と未来の地球に生きる子どもたちのために」できることから行動に移していきましょう。



いばらきコープ生活協同組合
代表理事 理事長
柴崎 敏男

いばらき
コープ
理念

CO-OP

ともにはぐくむ 暮らしと未来

私たちは、一人ひとりが手を取りあって、一つひとつの暮らしの願いを実現します。

私たちは、ものと心の豊かさが調和し、安心してらせるまちづくりに貢献します。

私たちは、人と自然が共生する社会と平和な未来を追求します。

ビジョン
2025

食卓を笑顔に、地域を豊かに、 誰からも頼られる生協へ。

食の安全と安心を第一に、コープデリ宅配事業と店舗事業を通して、食卓に笑顔をお届けし、

食の文化に関与している自覚を持ち、組合員の暮らしに生涯にわたって貢献します。

組合員の暮らしや地域社会で生まれた課題の解決に向けて、地域の団体・人とつながり、地域の多様性を認識し、協同して各地域で多彩な取り組みを推進します。

組合員は全世帯の半数を超えることをめざします。

時代を見据え、先進性を持ち、組合員に優しく地域を豊かにするコープとして、

誰にも寄り添った生協となり、地域から“身近に生協があって良かった”という“頼られる存在”をめざします。

私たちの連帯のレベルを高め、全国の生協や行政・諸団体と連帯・連携の輪を広げ、暮らしに関わる課題、環境・食料など地球規模・国際的な取り組みを進め、未来の組合員につながる協同を育んでいきます。

この冊子は、いばらきコープ生活協同組合の2023年度の社会的活動についてまとめ、ステークスホルダーにお知らせするために発行するものです。

*ステークスホルダー：利用者としての組合員・消費者のみならず、お取引先様、行政、諸団体など組合員・事業と連携して取り組みを進めるみなさま、および職員です。

コープSDGs行動宣言 私たち生協は、SDGs(持続可能な開発目標)に貢献することを約束(コミット)します。

私たちは、「生協の21世紀理念(1997年総会決定)」のもと、助け合いの組織として、誰もが笑顔でくらすことができ、持続可能な社会の実現をめざし、様々な取り組みを進めてきました。誰も取り残さないというSDGsのめざすものは、協同組合の理念と重なり合っています。私たちは、あらためて持続可能な社会の実現に向けて取り組むことを、「SDGs行動宣言」としてまとめました。

私たちは、以下の7つの取り組みをつうじて、世界の人々とともにSDGsを実現していきます。

持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます

私たちは、「つくる責任」と「つかう責任」の好循環を発展させ、持続可能な社会づくりをめざします。国内外の人々、そして限りある地球資源へ思いをはせ、商品の開発と供給を進めます。学習活動を通じて、エシカル消費や持続可能な社会に関する理解を促進し、私たち自らの消費行動やくらしのあり方を見直していきます。

関連するSDGsの主たる目標

12 つくる責任、つかう責任

目標12(つくる責任、つかう責任)
持続可能な生産消費形態を確保する。

関連するSDGsの目標

10 人や国の不平等をなくそう

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさも守ろう

地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します

私たちは、地球の持続可能性を揺るがす気候変動の脅威に対して、意欲的な温室効果ガス削減目標(2030年環境目標)を掲げ、省エネルギーと再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組みます。再生可能エネルギーの電源開発や家庭用電気小売を広げ、原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換をめざします。

関連するSDGsの主たる目標

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

目標7(エネルギー)
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。

関連するSDGsの目標

13 気候変動に具体的な対策を

目標13(気候変動)
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。

健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます

私たちは、食生活、運動、社会参加の視点から健康づくりを進めます。安全・安心はもとより、より健康な食生活に向けた商品事業と組合員活動を推進します。生活習慣病や介護予防など「予防」を重視し、福祉事業や助け合い活動を広げ、自治体や諸団体と連携し、地域包括ケアシステムのネットワークに参画します。

関連するSDGsの主たる目標

3 すべての人に健康と福祉を

目標3(保健)
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

関連するSDGsの目標

11 住み続けられるまちづくりを

世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します

私たちは、誰一人取り残さない世界をめざして、世界が抱える問題についての理解を深め、助け合いの精神を貫き、ユニセフ募金などに取り組み、世界の子どもたちを支援します。「貧困」の連鎖をなくしていくために、子どもの貧困について学び、話し合う活動を広げ、子ども食堂やフードバンク・フードドライブなどの取り組みを進めます。

関連するSDGsの主たる目標

1 貧困をなくそう

目標1(貧困をなくそう)
あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。

関連するSDGsの目標

2 飢餓をゼロに

4 質の高い教育をみんなに

6 安全な水とトイレを世界中に

10 人や国の不平等をなくそう

誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します

私たちは、誰一人取り残さず、安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します。自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、地域の見守り、移動販売や配食事業など、生協の事業や活動のインフラを活用し、地域における役割発揮を進めます。

関連するSDGsの主たる目標

11 住み続けられるまちづくりを

目標11(持続可能な都市)
包摂的で安全かつ強靭(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。

関連するSDGsの目標

1 貧困をなくそう

2 飢餓をゼロに

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

ジェンダー平等(男女平等)と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します

私たちは、地域における活動を通じて、社会のジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会の実現に貢献します。女性も男性も、誰もが元気に、生きがいを持って働き続けられる生協づくりを進めます。

関連するSDGsの主たる目標

5 ジェンダー平等を實現しよう

目標5(ジェンダー)
ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。

関連するSDGsの目標

8 働きがいも経済成長も

10 人や国の不平等をなくそう

核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します

私たちは、「核なき世界」の実現のために、世界の人々と手を携えて、核兵器を廃絶し、平和な社会をめざす取り組みを進めます。私たちは、次の世代に被爆・戦争体験を継承し、日本国憲法の基本原則である平和主義のもと世界平和の実現に積極的に貢献します。

関連するSDGsの主たる目標

16 平和と公正をすべての人に

目標16(平和)
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。

関連するSDGsの目標

17 パートナシップで目標を達成しよう



持続可能な生産と消費のために

～食卓を笑顔に～

2 無駄を
ゼロに



12 つくる責任
つかう責任



つながる力でつくる人達を支える

コロナ禍での事業継続

いばらきコープでは、組合員のみなさまに確実に商品をお届け続けられるよう「新型コロナウイルス感染拡大防止対策」を確実に行うことで事業継続をすすめてきました。しかし、購入いただく商品の点数を制限させていただいたり、計画的に商品を欠品にするといった対応も取らざるを得ないような状況が続くことがありました。組合員のみなさまの暮らしを支える事業を継続するために、働く職員の体調管理、マスクの着用とアルコールによる消毒、手洗等の対策を実施しました。

コープデリ店舗

コープデリ店舗では、店内入り口にアルコール消毒、スタンド式温度測定器（顔認証システム）を設置しました。また「新型コロナウイルス感染拡大防止の為、入店制限」ポスター掲示、サッカー台消毒、レジカウンターへの飛沫防止対策を行い、安心して買い物ができるように取り組みました。また職員に向けて、マスク提供、アルコール消毒、健康管理、会議室の仕切り板を実施しました。

コープデリ宅配

コープデリ宅配では、コロナ禍を受けてソーシャルディスタンスを確保するため会議室も事務所として活用しました。また、地域担当者へのマスク提供、アルコール消毒、健康管理を実施しました。



オンラインを活用した産直産地との交流

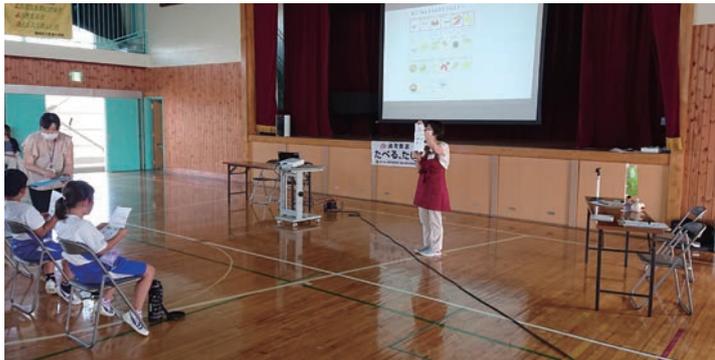
いばらきコープでは、コロナ禍の影響で組合員活動が制限される中、オンライン圃場確認を活用した産直産地との交流の取り組みを行いました。



食育教室「たべる、たいせつ」

県内の教育機関や小学校幼稚園などに、食育教室などの案内をまとめた「学校教育に役立つ学習ガイド」を配布し、授業や校内活動などに協力しました。

「食育教室 たべる、たいせつ」は、食育サポーターが講師となり、「楽しくたべる」「日本型食生活」「地産地消」の大切さを県内の小学校や他団体と協力しながら取り組みました(2022年度はコロナ禍のため、開催は10回でした)。



いばらき美味しお Day

茨城県より依頼を受けて「減塩の日(いばらき美味しお Day)」として、全店舗で特設コーナーを設け来店した組合員の皆さんにお知らせしています。この取り組みは毎月20日を「減塩の日」として全店舗で実施しました。

また、いばらきコープの減塩弁当「からだ健やかシリーズ」を茨城県庁舎(県庁生協内)にて限定60個を販売しました。



いばらき美味しおスタイル指定店

茨城県が推進する、美味しい、ヘルシー、美しい生活スタイルで「減塩」に取り組み健康長寿日本一へ! 県民皆様の塩分摂取量を減らし、健康長寿日本一を目指すために、「いばらき美味(おい)しおスタイル」に全店舗で登録しました。



いばらき 美味しおスタイル



「からだ健やかシリーズ」の六黒健菜!
鶏肉の黒酢あん弁当/煮鯖と彩り野菜の雑穀ご飯弁当/鶏もも西京味噌焼きと雑穀ごはん弁当



安心してらせる 地域づくりのために ~地域をゆたかに~



コロナ禍で困難な状況にある方への支援

いばらきコープは、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が続くなか、昨年も多くの組合員の皆さまにご利用いただきました。とくにご自宅まで商品をお届けする宅配需要の高まりから、計画を上回る供給高と剰余を生みだすことができ、地域のなかでコロナ禍により苦しんでいる人達やそうした方々を支える活動をしているみなさんを応援するために寄付をおこないました。

県社協・県共同募金会への寄付

(2023年3月)

贈呈先	寄付金の名称・用途など	寄付金額
茨城県 社会福祉協議会	市町村の社協が実施している困窮者への生活支援事業に活用いただく。	300万円
茨城県 共同募金会	生活課題を抱える方達を支援し、つながりを絶やさない社会づくりに寄与する団体が安定して活動できるための助成。	200万円
合計		500万円



また県共同募金会様へは、書損じハガキや切手などの換金で得られる資金をもとに、貧困で苦しむご家庭・子どもたちの支援活動を資金面で応援する「ハガキ・切手回収キャンペーン」を実施し、4,361,450円を寄付しました。

他団体への食の支援

子ども食堂応援事業をNPO団体コモンズが受託して進めている「子ども食堂サポートセンターいばらき」へ有機栽培米 宮城県産コシヒカリ200kg (1kg×200袋)をお渡ししました。



社会貢献積立金の活用

社会福祉法人 下妻市社会福祉協議会が取り組む「にこにこ294 (ふくし) セット」として、配布200世帯にコープ商品を提供しました。



福祉施設への応援

福祉施設では、障がいのある方たちの就労支援として、食品や小物などを作成し販売しています。しかし新型コロナウイルス感染症の影響により、商品を販売する予定だったイベントが中止になったり、これまで販売していたお店で販売することができなくなっていることを受けていばらきコープ本部で出店販売に協力しました。



いばらきコープ奨学金制度

いばらきコープの組合員のひとり親家庭の高校生を支援する 奨学金制度を2022年よりスタートしました

現在日本の子どもの7人に1人は貧困状態であると言われています。長引くコロナ禍の影響がこの状況を更に悪化させています。生活が苦しい状態にある家庭のお子さんが将来への夢をあきらめることなく社会に出られるよう、後押しすることが出来ないか考えました。その結果、奨学金制度を設立し、生活がより困難な状況にある「ひとり親」家庭のお子さんの高校生活を組合員同士の助け合いで支える取り組みを始めました。



募集時のポスター

◆いばらきコープの奨学金給付事業とは

いばらきコープ奨学生(高校生)に返済不要の奨学金(月1万円を3年間)を給付します。奨学生は、新たに設置する「いばらきコープ社会活動財団」によって募集・選考の上、決定します。

◆2023年度は36名の奨学生を選考しました

いばらきコープ社会活動財団として初めての、2022年度の奨学生について、1月下旬より案内を開始しました。

4月の選考委員会で36名の奨学生を選考しました。このことにより、昨年の13名と合わせ、2023年度の奨学生は合計で49名となりました(1年生17名、2年生21名、3年生11名です)。

高校生活への抱負～寄せられた奨学生の声より抜粋～

- ③ 中学生生活は、コロナ禍により沢山の規制を受けてきたので、学校行事に積極的に参加し、学生生活を充実させたい。高校生活中に資格を取得するために励みたい。
- ③ 義務教育ではないとしっかり自覚していきたいです。周りの状況をよく確認して良い判断が出来る高校生活をおくりたいです。

2022年度 「いばらきコープ社会福祉政策」が制定されました

「いばらきコープ社会福祉政策」は、2010年に制定した「いばらきコープ福祉政策」が10年を経過したことを契機に、これまでの取り組みの振り返りと福祉分野における今後の進むべき方向性について改めて検討を行い、いばらきコープとして大事にしたい『連携』『支え合い』『総合力』『地域とともに』をキーワードにまとめたものです。

いばらきコープ 社会福祉政策



全文のダウンロードは
こちらから

各市町村への表敬訪問

各市町村に2~3年に一度、市町村長を訪問し、締結している協定の状況や事業・活動の到達などを報告し、また、「誰もが安心してらせる地域づくり」を進めるための意見交換、行政からいばらきコープへの期待・要望をお聞きすることを目的に懇談をしています。2022年度は11市町村で実施しました。



水戸市



小美玉市



つくば市



土浦市



鹿嶋市



取手市



笠間市



石岡市

● 見守り協定

コープデリ宅配での配達中や店舗などで、高齢者や子どもなどの要援護者の異変を感じたときに、行政機関の指定する窓口へ通報し対応を依頼するものです。

見守り協定における行政機関への連絡件数

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
件数	5	13	9	12	10	3	10

通報させていただいた事例

組合員さん宅に配達に行ったところ、フラフラで歩けない状態だった為、ベッドまで連れて行き、市高齢福祉課に連絡しました。
⇒その後、組合員さんは救急搬送され、入院したとのことでした(コロナ陽性)。

配達先で、一人暮らしの高齢者の組合員さん宅に伺った時に、テレビの音がするのにも関わらず声をかけても返事がなく、新聞も3日分ぐらい溜まっていると担当者から連絡があり、協定にもとづき、市高齢福祉課へ連絡し対応を依頼しました。
⇒お亡くなりになっていたとの連絡をいただきました。



地域のスポーツ振興を応援

いばらきコープでは地域貢献の一環として、地域でのスポーツ振興を応援しています。プロサッカーJ2リーグ「水戸ホーリーホック」、プロ野球BCリーグ「茨城アストロプラネッツ」、バスケットボール チーム「茨城ロボッツ」をスポンサーとして応援しています。



協同組合ネットいばらき

2012年は国連が定めた「国際協同組合年」でした。その時を契機に県内の協同組合の連携が進み、その取り組みを継続するために「協同組合ネットいばらき」が設立されました。現在、生協や農協、漁協、森林組合などの協同組合やマスコミなど46の団体・企業が加盟し、さまざまな取り組みに取り組んでいます。いばらきコープも積極的に参加しています。



協同組合ネットいばらき

行政機関などの委員を受嘱しています

いばらきコープの役職員が、行政機関や団体の委員等に就任し、消費者の団体として、また流通・サービス事業者としての立場から参加し、意見を述べさせていただきます。

主な就任先

〔県〕

畜産センター外部評価委員、食育推進部会 委員、食肉公正取引協議会 理事、いばらき地鶏認証委員会 委員、農業総合センター評価委員会 委員、日本型直接支払制度推進委員会 委員、はんどちゃん運動推進委員会 副委員長、いばらきオーガニック推進ネットワーク委員、茨城むらまろネット幹事

〔市町村〕

水戸市廃棄物減量等推進協議会 委員、土浦市環境基本計画推進協議会 委員、行方市男女共同参画推進委員会 委員長、利根町まち・ひと・しごと創生推進協議会 委員、那珂市介護予防・生活推進サービス推進協議会 委員、小美玉市生活支援体制整備事業第1層協議体 委員、牛久市生活支援体制整備事業第1層協議体 構成員、牛久市買物支援・支えあいのまちづくり推進協議会 副委員長・委員、笠間市環境審議会 委員、桜川市生活支援体制整備課 第1層協議体 委員

コロナ禍での参加とネットワーク

● オンライン学習会

2022年度も新型コロナウイルス感染拡大のため、工場見学などができないなか、組合員から寄せられた「コープの商品や取り組みの学びや利用の幅を広げたい。」「生産者やメーカーの方との交流がしたい。」との声に応えるために、ブロック委員、職員が協力し、オンラインツールを活用した学習会を実施しました。



北部 「おうちで一緒に寄せ植えを作ってみましょう」開催



北西 「夏休み応援企画
ハッピーミルクプロジェクトオンライン学習会」開催



中部 「ブロック別活動交流会を行いました」開催



東部 「地域の子育てを多世代で支える」開催



南央 「ほくほく美味しいじゃがいも食べ比べ学習会」開催



南部 「ピースアクション☆平和の折り鶴昇華再商品
プレゼント企画」開催



南西 「アレどこ？ が減る！冷蔵庫の整理整頓お片付けワーク
ショップ」開催



西部 「ナリス化粧品の魅力を学びました」開催



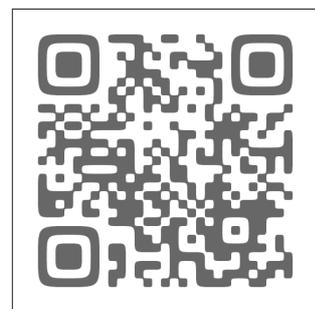
100年後の地球のために

～持続可能な社会のために～



いばらきコープ環境基金

2000年にいばらきコープ環境基金を設立。翌2001年より県内で環境保全や環境学習などを行う団体・個人に対して毎年助成を行っています。2023年度(2022年度受付)は40団体(個人含む)に総額200万円を助成しました。環境基金の財源は、組合員からコープデリ宅配や店頭で回収したリサイクル品の売却益を充てています。



二次元コード

環境基金助成実績推移

助成年度	助成件数	助成額(万円)
2019年(2018年度募集)	35	200
2020年(2019年度募集)	47	237
2021年(2020年度募集)	46	230
2022年(2021年度募集)	44	220
2023年(2022年度募集)	40	200



「いばらきエコファン」は、いばらきコープ環境基金の愛称です

がっこうシリーズ

自然豊かな茨城県を身近に感じてもらいながら、自然環境を守ることの大切さを家族みんなで考え、そして楽しく学ぶ「コープのがっこう」を毎年開催しています。実際に海や川、湖に行き、水辺に住む魚や小エビを捕まえたり、森の中でキノコを見つけたりしながら、自然や生き物について学ぶ体験学習です。2022年度は「海」「川」「湖」「森」「田」の5つのがっこうを開催し、組合員とその家族84名が参加しました。



環境教室

環境教室はいばらきコープの環境サポーターが講師となり、リサイクルや森林保全などについて学習します。資源の有効活用を実体験として学ぶことができる“牛乳パックを再利用してハガキをつくる「紙すき体験」”を、県内の教育機関や小学校、子ども会などから依頼を受け開催しました。



リサイクル回収実績(2022年度)

回収品目	回収量(t)	前年回収実績(t)	前年比
牛乳・飲料などの紙パック	70.4	67.0	103.7%
たまごパック	14.5	10.2	118.4%
ペットボトル	64.0	53.9	138.2%
食品トレー	32.3	28.8	106.7%
商品カタログ	3,561.5	3,290.1	102.9%
注文用紙	47.3	52.5	96.2%
商品・カタログお届け用 ポリエチレン袋	58.8	57.6	100.7%
アルミ缶	7.7	8.3	92.1%
合計	3,987.1	3,568.4	103.5%

※コープデリ宅配センター、店舗で回収されたリサイクル品は、コープデリグループのエコセンター(千葉県野田市)で減容処理を行っています。

太陽光発電設備設置事業所

事業所名	出力(kW)	設置日
うしく店	3.0	1998年 1月
十王センター	5.0	1999年 7月
千代川センター	5.2	2001年 2月
常陸太田センター	5.0	2001年 3月
銚田センター	5.3	2004年 3月
つちうら店	10.0	2007年 1月
守谷センター	4.5	2008年 1月
ひたちなかセンター	190.0	2013年 4月
笠間センター	194.0	2013年 11月
鹿嶋センター	49.5	2017年 9月
菜の花の家 水戸	49.5	2017年 10月
水戸センター	70.0	2020年 4月
つくばみらいセンター	106.6	2021年 10月
合計	697.6	

太陽光発電設備の設置と PPS(新電力会社)への売電

施設の屋上などに太陽光発電設備を設置し、再生可能エネルギーの普及を進めています。発電した電気は、環境負荷の少ない太陽光、バイオマスなどの再生可能エネルギーの普及をすすめている地球クラブ(日本生協連、コープデリ連合会等が出資設立した※PPS)に売電しています。

※PPS:Power Producer and Supplierの略。一般電気事業者(〇〇電力などの電力会社)以外の、電気の供給を行う事業または事業者のこと。

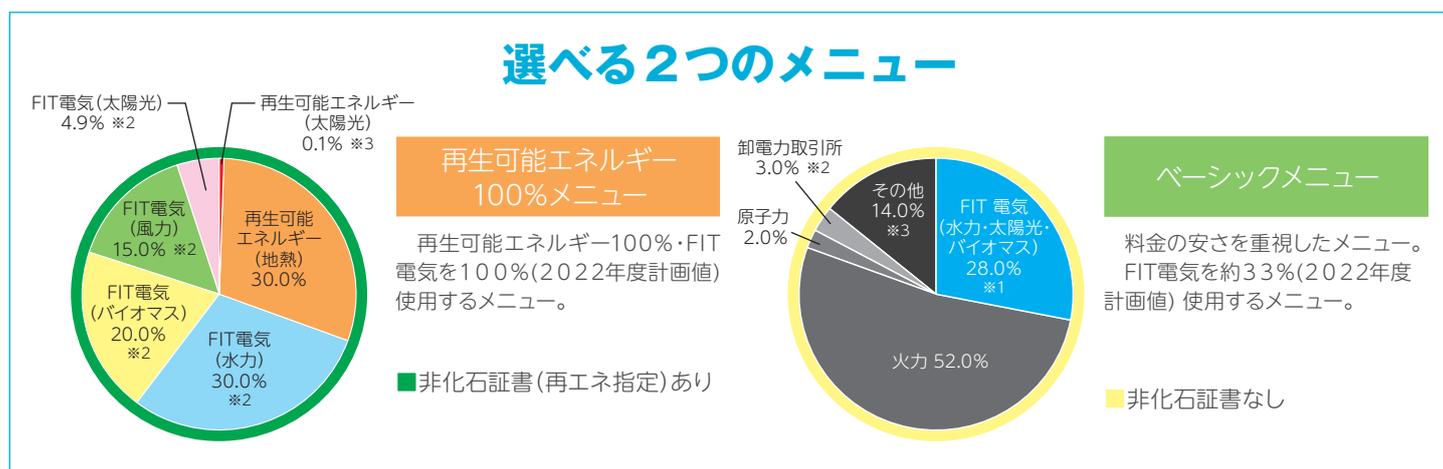


コープデリでんき くらしと未来にやさしいでんき

経済メリットのある電気や再生可能エネルギー比率の高い電気のメニューを提供し、消費者・組合員の選択の幅を広げ、組合員の暮らしや持続可能性のある社会づくりに貢献します(2018年9月供給開始)。

● 2023年3月現在の契約件数6,646件

(再生可能エネルギー100% メニュー148件、ベーシックメニュー6,498件)





世界中の人々の 平和で健康な生活のために



「平和とよりよき生活のために」。このスローガンのもと、いばらきコープでは平和の取り組みを行っています。平和の取り組みの財源の一部には、組合員の皆様から協力いただいている「平和募金」に充てています。

ピースアクション

● 茨城大学の先生、学生と協力し作成した「茨城県内の戦跡動画」制作

この動画制作は、茨城県内に多くある戦跡を子供たちに知ってもらい、平和について考えるきっかけになってほしいとの思いから、子供たちに近い大学生の皆さんの言葉や目線で伝えてほしいとの想いから始まりました。茨城大学でのキックオフから約1年。現地での取材や視察資料収集・動画のシナリオ・制作指示書・出演・本番撮影・編集・許可取りなど多くの時間、行程をかけて学生の皆さんの想いが伝わる動画が完成しました。

参加した学生からは、「自分で調べて自分の言葉で伝えられて良かった」「自分の生まれ育った茨城県に多くの戦争遺構、遺跡があることを知らなかった。その背景や関係者の思いなど知れて良かった」「当時の姿が失われていく場所もあり、映像で残す意味は大きい。」など全員から、気持ちや感想を聞くことができました。佐々木先生から、「それぞれの思いを、共有したり一つにしていって苦労もあったけれど、一生懸命頑張って、みんなの思いが繋がって、いいものができました。」



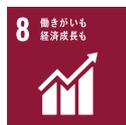
■いばらきコープは、「2022ピースアクション in いばらき実行委員会」の一団体として参加

子ども支援プロジェクト

フードバンク茨城は学校の長期休みに合わせ、無料塾に通う子供たちや子供食堂に来る子供たちの家庭へ箱詰めした食品をお届けする、「子ども支援プロジェクト」の春・夏に取り組んでいます。この活動に対して食品の支援を行いました。



人にやさしく誇りが持てる 組織をめざして



多様な働き方とライフ・ワークバランスの推進

いばらきコープでは、次世代育成支援対策推進法にもとづく取り組みを行い、「子育てサポート企業」として厚生労働省の認定を受けて「くるみん」を取得しています(認定年度:2009年、2014年、2016年、2018年、2019年、2021年)。

くるみんマークは、取得回数が一目でわかるよう取得回数に応じて星が増えていくマークになっています。

2021年度の取り組みで、星マークが5つになりました。

また、毎年夏休みにパパやママの仕事をお子さんが体験する「子ども参観日」を実施しています。
(2020年~2021度はコロナ禍のため企画中止)



組合員の期待に応える職員

いばらきコープには、理念・ビジョンの実現に向けて、職員一人ひとりが仕事を進める際に行動の基本となる「行動指針」があります。そして、素晴らしい行動をした職員に対して、職場の仲間から「イイネ!カード」を送ります。そして、たくさんのイイネ!の中から、素晴らしい事例をえらび、毎月表彰しています。



イイネ!カード

組合員のくらしに寄り添う商品とサービス

宅配事業

おいしさと安心を、ほしいときにお届け

組合員ニーズやそれぞれのライフスタイルに対応した品揃えで、利便性とサービスの向上をめざします。

商品カタログ「いばらき版ご当地マルシェ」コーナーを活用して茨城ならではの商品の取り扱いを進めています。



店舗事業

いばらきコープのお店は県内に4店舗(水戸市・ひたちなか市・土浦市・牛久市)。ご来店いただく組合員一人ひとりにとって、お買い物をもっと楽しくなることをめざし、「おいしい、うれしい、たのしい、心あつたまるコープのお店」づくりをすすめています。2023年4月28日コープ日立店オープン。



福祉事業

いばらきコープは、「誰もが安心してらせる地域づくり」の実現のための取り組みの一環として通所介護事業(コープ菜の花デイサービスセンター・コープ菜の花石岡旭台デイサービスセンター)、訪問介護事業(コープヘルパーステーション)、居宅介護支援事業(コープケアプランセンター)、サービス付き高齢者向け住宅(コープ菜の花の家 水戸)を展開しています。2017年に開所した「コープ菜の花の家 水戸」には、茨城保健生協が運営する「看護小規模多機能居宅介護事業所 そらいろ」を併設しており、「通いサービス」「泊まりサービス」「訪問看護」「訪問介護」を組み合わせ利用することが出来ます。



茨城県の支援制度に協力しています

「いばらきKids Club制度」、「いばらき高齢者優待制度」、「いばらきヘルスケアポイント事業」に協力し、それぞれ、ポイント付与や割引などのサービスを実施しています。



2023年度 宅配 コープデリ龍ヶ崎センター (10月度 稼働予定)



龍ヶ崎センター(2022年7月 地鎮祭)



店舗 コープ日立店 (4月28日オープン)



行政区別組合員数

(組合員数2023年3月20日現在、世帯数2023年3月1日現在)

行政区	組合員数	世帯数	加入率
水戸市	49,107	124,984	39.29%
日立市	18,970	76,824	24.69%
土浦市	28,460	65,483	43.46%
古河市	14,736	57,461	25.65%
石岡市	9,165	28,708	31.92%
結城市	4,240	19,723	21.50%
龍ヶ崎市	10,001	32,921	30.38%
下妻市	5,017	16,919	29.65%
常総市	6,850	23,047	29.72%
常陸太田市	7,869	18,919	41.59%
高萩市	2,820	11,507	24.51%
北茨城市	3,831	17,033	22.49%
笠間市	10,680	29,507	36.19%
取手市	12,813	46,754	27.41%
牛久市	17,265	35,975	47.99%
つくば市	25,950	118,695	21.86%
ひたちなか市	30,234	67,900	44.53%
鹿嶋市	6,264	28,632	21.88%
潮来市	2,543	10,768	23.62%
守谷市	8,567	28,650	29.90%
常陸大宮市	5,306	15,638	33.93%
那珂市	7,948	21,268	37.37%

行政区	組合員数	世帯数	加入率
筑西市	12,245	38,531	31.78%
坂東市	5,445	19,003	28.65%
稲敷市	5,295	14,647	36.15%
かすみがうら市	4,837	15,843	30.53%
桜川市	6,010	13,495	44.54%
神栖市	9,334	41,533	22.47%
行方市	3,789	11,153	33.97%
鉾田市	5,693	18,567	30.66%
つくばみらい市	6,243	20,972	29.77%
小美玉市	6,351	18,616	34.12%
茨城町	5,543	11,775	47.07%
大洗町	1,998	6,647	30.06%
城里町	2,881	6,934	41.55%
東海村	5,844	15,912	36.73%
大子町	2,143	6,196	34.59%
美浦村	2,301	5,890	39.07%
阿見町	7,333	21,463	34.17%
河内町	1,129	2,875	39.27%
八千代町	2,097	7,239	28.97%
五霞町	634	2,996	21.16%
境町	2,530	8,985	28.16%
利根町	1,965	6,335	31.02%
茨城県	390,276	1,212,923	32.18%
県外	3,214		
総計	393,490		

いばらき
茨城をたべよう



いばらきコープは「茨城をたべよう運動」を応援しています。

「茨城をたべよう運動」は県民が一丸となって県産農林水産物を食べて応援していく地産地消運動です。茨城県では、平成24年11月9日に農林水産業の関係団体などを中心に280団体で「茨城をたべよう運動推進協議会」が設立し、令和3年度から協議会の取組を拡充させるとともに、協議会の名称を「いばらき食の魅力発信協議会」に改め、引き続き「茨城をたべよう」のシンボルマークを活用しながら、県産農林水産物の県内外での認知度向上と消費拡大を図っていく取り組みを応援しています。

コープデリグループサステナビリティサイトはこちらの二次元コードからご覧になれます ▶

